【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第１区分
【発行日】平成19年7月5日(2007.7.5)

【公表番号】特表2002-544107(P2002-544107A)
【公表日】平成14年12月24日(2002.12.24)
【出願番号】特願2000-617145(P2000-617145)
【国際特許分類】
Ｃ０４Ｂ　41/68　　(2006.01)
Ｃ０９Ｄ 183/04　　(2006.01)
Ｃ０９Ｄ 201/00　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０４Ｂ　41/68
Ｃ０９Ｄ 183/04
Ｃ０９Ｄ 201/00

【誤訳訂正書】
【提出日】平成19年4月26日(2007.4.26)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】０００５
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【０００５】
ヨーロッパ特許第０，２４７，９１０号明細書からはバインダーマトリックスが固体物質を基準として約１００重量部の珪酸カリウム、約１０～４０重量部の二酸化珪素製微粒子および約１５～約１００重量部の真珠光沢顔料を含有する無機系珪酸塩被覆物が公知である。二酸化珪素とアルカリ金属酸化物とのモル比３．９５の水ガラスを使用する場合には、被覆物中の二酸化珪素とアルカリ金属酸化物とのモル比は６．１５までででもよい。被覆された対象物の製造方法としては、被覆剤組成物を基体に塗布し、次いで硬化させるために基体と一緒に約２００℃～約４００℃の温度にしなければならないことが記載されている。
【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００５０
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００５０】
例４：
この例は例２に相応するが、疎水性化添加物としてＴ（Ｍｅ）$_n$ Ｄ（Ｍｅ／ドデシル）$_n$（ｎ＝１～１０）の構造を有するメトキシ官能アルキルポリシロキサン３３重量％を含有する６０ｇの“Baysilone Impraegnieremulsion LD"を使用する。この珪酸塩混合物を用いて製造された被覆物は耐候性があるが、霜露の繰り返し試験では例２におけるよりも安定性が僅かに悪い。水吸収性は僅かであるが、例２の場合よりも多い。水滴をはじく。
【誤訳訂正３】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００７１
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００７１】

例２１：

珪酸塩混合物のために、例１とおけるのと同じ水性シリカゾルおよび同じアルキルポリシロキサン水性分散物を使用する。３８０ｇの水性シリカゾルに、フィラーとして３０μｍの平均粒度を有する１０６０ｇの石英粉末および４５μｍより小さい粒度の１６０ｇのMikrosilika UP 983 (製造元: Elkem GmbH、デュセルドルフ) を添加しそして５分にわたってディソルバーによって１２ｍ／秒～１５ｍ／秒の比較的速い剪断速度で分散させる。次いでアルキルポリシロキサン水性分散物２０ｇを添加しそして約３ｍ／秒の比較的に遅い剪断速度のもとで十分に混合する。非常に高い固形分含有量のこの珪酸塩混合物は大型の成形体を製造するための粘性のある良好な流動性の注型用成形材料として使用される。注型用型の形状を正確に再現し、ひび割れがなくかつ非常に小さい空隙率を有する強い板状のモノリスの成形体が製造される。